



天神町  
てんじんちょう

江戸時代の製作。彫師は磯辺儀兵衛敬信。鬼板と懸魚は波間に二頭の龍、琵琶板と外欄間は尾長鳥と梅、脇障子は竜虎、高覧下と車隠しは「牡丹に唐獅子」で統一されて、全体的に厚みのある彫刻が特徴。



銀座二丁目  
ぎんざにちようめ

安政4年制作。鬼板・懸魚の「桐に鳳凰」が見事。彫刻は後藤音次郎棟梁の下で後藤一門などが手がけ、車体は大工茂八が製作。江戸時代に製作された屋台で唯一、柱飾り彫刻のついた屋台。



久保町  
くぼちょう

文化10年製作。黒漆塗彩色彫刻屋台で、金泥や錆金具をふんだんに使用された豪華絢爛な屋台。鬼板・懸魚の二頭の龍は一本彫りで、破風板と渾然一体となり、見所の一つである。



朝日町  
あさひちょう

昭和29年製作。彫刻は、彫師 阿久津若陽により鬼板に鳳凰、懸魚に菊水。雲蝶により欄間に花鳥が取付られた。



文化橋町  
ぶんかばしちょう

昭和33年製作。車体は半貫文太郎。彫刻は辻幹雄の手により、鬼板・懸魚・高覧下・車隠しが取り付けられた。その後、町内の彫刻家連により彫刻が追加されている。



上田町  
かみたまち

文政5年製作の屋台は焼失し、昭和28年に再建。黒漆塗の脇障子は旧屋台のもので、彫師 石塚知興が手がけた。彫刻は黒崎嘉門により全面的に復元されている。



上田町  
かみたま

文政11年製作。彫刻は石塚知興。鬼板は、丸彫りの金獅子で、子獅子を破風板の両端に位置している。外欄間など随所に緻密な技法が駆使され、脇障子には螺鈿細工が用いられている。

**屋台まめ知識**

**上組彫刻屋台**

鹿沼の屋台は踊り場(芸場)としての機能を備え、大正時代頃までは、向拝柱を外し、両面彫を施した左右脇障子を開き、張り出し舞台を設け、手踊りなどの演芸を披露していました。

両面彫りの脇障子

**屋根構造**

鹿沼屋台の屋根は唐破風付きで伝統技術を多く活かされています。曲線の優雅さの中に重厚感を兼ね備え、さらに彫刻の存在を引き立てています。

**田町上組彫刻屋台**



府中町  
ふちゅうまち

平成2年製作。彫刻は彫師黒崎嘉門の手によるもので、鬼板には、鹿沼では珍しい「大獅子」の構図を用いている。



御成橋町  
おなりばしちょう

大正6年製作。大正10年頃、彫刻 石塚広次が彫刻を制作した。戦後、屋台は黒漆塗りに、彫刻は彩色が施され、一段と風格のある屋台に生まれ変わった。



泉町  
いずみちょう

平成8年製作。彫師は、黒崎嘉門。泉町が鹿沼北部に位置することから、鬼板、懸魚に北の守護神「玄武」すなわち、蛇と亀の構図を用いている。欄間、水引などは優美な花鳥を主とした彫物で構成。



戸張町  
とはりちょう

文政11年製作。彫師は石塚知興・吉明親子。文政12年に白木屋台として完成、弘化3年漆塗彩色彫刻屋台となった。鬼板・懸魚は「獲物を狙う大鷲と藤に身を隠す三匹の猿」の構図。



上野町  
うののまち

昭和58年製作。車体は元野兄弟、彫刻は黒崎嘉門。鹿沼の職人によって一貫して製作された屋台で、全面を豪壮な彫物で飾る。龍馬の彫物に特徴がある。



府所本町  
ふどころほんちょう

平成5年製作。修一建設により建造。脇障子・欄間・後羽目などは、鹿沼建具の伝統「組子」で構成されている。彫刻は台湾の彫師によるもので、鬼板・懸魚は二頭の龍が玉を奪い合う構図。



府所町  
ふどころちょう

昭和63年製作。鬼板と懸魚は富山県、脇障子・外欄間・車隠しは台湾の彫師による。日台合作の珍しい屋台。屋根には巨大な水晶の球が飾られている。